

みどりみらい 2nd SEASON ぐんじとしのりの議会報告

2006/03/31 Vol. 83 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / mmirai@kitemachi.com

印西市議会/平成 18 年第 1 回定例会報告 (2)

いつもお世話になっております。印西市議会第 1 回定例会(3月議会)は、3月23日(木)までの会期にて行われ、平成 18 年度一般会計予算案等 36 議案を審議し、閉会しました。今回は、成立した一般会計予算についてほか、ご報告していきたいと思ひます。

一般会計予算～203 億 2 千万円 私は反対しました。

今回も印西市では 23 名の全議員による「予算審査特別委員会」を設置し、5 日間にわたって、各部各課ごとに細かく質疑を行いました。(私は副委員長として、その内容を 5 月発行の議会便りに掲載予定する予定です。)

なぜ、私は予算案に反対したか。

1 点目として、市長の選挙公約との関係です。山崎市長は公約で「安心、安全、活力の街」と掲げ、現在、市長の職にあるわけですが、まず注目したいのは「活力の街」という部分です。

目的別歳出では農林水産業費の歳出は全体の構成比で見ると今年度と比べ、半分。商工費は横ばい。土木費は構成比で 3%上がっている。必要なインフラ整備があるのは認めますが、山崎市長が就任して 2 度目の予算編成で産業の保護・育成と言う意味では「前海老原市長時代と何も変わってないな。」正直このように感じています。また、経済活性化推進事業が新規事業としてあがってはいますが、東京電機大学の NPO(いんざい産学官支援ネットワーク)が「いんざい産学連携センター」の指定管理者として管理運営にあたりますので手の届かないところに行かなければいゝなと危惧しています。

更に、民生費(主に福祉に係る費用です。)は横ばい、衛生費(主に保健衛生や環境問題に関する費用です。)も 1%下がっていることも皆様にお伝えしなければなりません。これで「安全、安心」の街が築けるのでしょうか? ハードをつくればいいというものではありませんので、私は「しっかりと中身を吟味し、市政運営を行っていただきたい」ということを伝えました。

2 点目として、疑問のある主要事業について 2 つ皆様にご提示したいと思います。

(1) 北総線の高運賃対策及び子育て支援の一環として、通学定期購入の際の負担軽減を図る事業について。今回の予算案にあたっては他の自治体と協議し、足並みを揃えたと説明を聞きましたが、市民への説明責任はどのように果たしていくのでしょうか?(今回の対象者は上限を 23 歳未満に限るとするものです。)私は、対象者を減らすべきでなかったと考えています。対象者が多少増えても財政に影響があるとは考えられず、補助を出すことで印西市のプラスのイメージが広がり、市政運営においてもいい影響を及ぼすと考えています。

(2) 木下駅舎等整備推進事業についてです。～私は木下駅の整備に反対しているわけではありません。私が問題としているのは「債務負担行為*」をつけるという部分です。詳細設計も終わっていないのに、なぜ、**14 億 7800 万円**という金額を議員に提示することができるのか? 明確な答弁がいただけませんでした。本来ならば、詳細設計が終わり、議員に内容を説明してから、債務負担を組んでもいいのではないですか? 金額を固定して何をしたいのですか? はじめに金額ありきとしか思えない。どこでコストダウンを行うのでしょうか? 言葉を返せば、債務負担を先に組むと言うことは、どうぞこの金額で工事をやってくださいと提示しているようなものです。そもそも、木下駅圏は利用人口が増える見込みがあるのですか? ほんの少しと考えます。一方で市長は印旛高校を移転したいと考えている。矛盾していることをしようとしていませんか? 必要なところに必要な施設を設計し、コストを削減し、利用予想人口にふさわしい駅舎をつくるべきです。

* 「債務負担行為」= 将来の支出義務の負担を伴うものを明示することで住民理解の便宜を図る制度です。

** 木下駅周辺整備には、駅舎改築工事以外に、駅前広場工事等で、今後 3 年間で約 18 億円が投じられます。

最後に今回の予算を反対する最大の理由は、印西市では収入役を置かないと言うことが条例で提案されたにも関わらず、市の監査委員は現行のまま2名で増員しないということからです。

非常に疑問です。まず、「収入役は不要」という全く根拠の無い提案については、憤りさえ感じました。
- 今回の議決案件で収入役を廃止するという条例案が可決しました。私は反対をしましたが、大多数の議員が賛成し、この条例は可決され、4月1日～印西市では収入役の職務は助役が兼任することになります。

そもそも、収入役とは「会計事務の公正さをはかることを担保する」ために設置されている役職です。

つまり、印西市の会計事務については、収入支出を執行する場合には、これを命令する命令機関（山崎市長）と、その命令に従って職務を行う執行機関（稲毛収入役）とに分離することによって会計事務の公正さをはかることになっていました。もちろん、稲毛収入役は山崎市長の政令で定める命令がなければ支出することはできませんでした。このことは当然ですが、重要な規定が地方自治法 232 条の 4-2 項にあります。この条文では、印西市に当てはめると山崎市長が支出命令をした事項に関しての審査権（法令または予算に違反していないこと及び債務が確定していることを確認しなければならない）を稲毛収入役は有していました。（独立した会計事務を執行する権限と責任を収入役は持っていました。）しかし、今回の条例が審議され、可決されたことにより、命令機関の補佐である伊藤助役自身が支出負担行為の審査を行うという形になります。
これでどのようにして会計事務の公正さが図られるのでしょうか？

収入役を廃止しました。廃止すると必然的に、今度は、監査役は重みが増すべきですが、印西市では残念ながらその認識さえ薄く、また私が昨年9月議会で指摘した行政監査の検討についても行われていないため、増員する見込みもありません。監査役が腰をじっくりおちつけなければいけません。仕事はできないのではないかと、困るのです。監査役は財政の健全性を認める砦であると同時に、本質的には入札や随意契約が適正であるということさえ、監査役の監査によって担保してほしいと考えます。市民主導市政を目指すのであれば、何よりも市民が適正な市政運営を行っている印西の行政組織を見て信じられなくてはなりません。私は今回の予算案に対し、適正な市政運営を行っている自信をもって市民の皆様にお伝えできません。

以上のような理由で、私は今回の予算の中では、山崎市長が選挙公約として掲げた「市民主導市政への大転換」が図れていないことを指摘し、まずは、市民の目線で、全体の行政運営をとらえなおし、市政の不透明性の解消と十分に信頼される施策の実施に期待をこめて、反対討論としました。

図書館が祝日の一部も開館します。（8日間）

多くの皆様からご要望をいただき、昨年の6月議会で市民の声として執行部に問いましたが、平成18年度から「今後の図書館運営の基礎データを収集するため」として祝日の一部を開館することになると報告がありました。開館する日程は以下の通りです。（当初予算で996万1千円、今年度比較で増額されています。）

4/29（みどりの日） 5/3（憲法記念日） 5/4（国民の休日） 5/5（子供の日）
9/23（秋分の日） 11/3（文化の日） 12/23（天皇誕生日） 2/11（建国記念日）

ふれあいバスの大幅な見直しが予定されています。

ふれあいバス検討委員会では4回にわたって委員会を開催してきましたが、10月に現行の3ルートから4ルートに変更すること、1ルートあたりの循環時間は1時間以内にする等が決定されました。（提言では、「料金については¥100にすること（小学生や障害者手帳の保持者は引き続き無料、高齢者については引き続き検討）」や「日曜日及び祝日の運行については引き続き検討すべき」ことも盛り込まれています。）

* NT中央地区と牧の原地区から市役所へ向かうバスルートは1ルートだけになる予定です。
（NT中央地区～牧の原地区～草深・松崎・武西～NT中央地区を巡回する路線ができる予定です。）

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と手を携えていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

ぐんじとしのり